

令和6年3月18日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和6年2月分

～令和6年2月 データから見た業界の動き～

令和6年3月18日 発表

製造業は売上の確保が課題 非製造業は業種によって景況感に大きな隔たり
り
物価高、賃上げ、人材不足・・・連携による対策が必要



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和6年3月18日 発表

製造業は売上の確保が課題 非製造業は業種によって景況感に大きな隔たり 物価高、賃上げ、人材不足・・・連携による対策が必要

■ 概 況

2月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲18ポイント（前年同月比 20ポイント↓）

収益状況 ▲16ポイント（前年同月比 2ポイント↑）

景況感 ▲30ポイント（前年同月比 18ポイント↓）となり、収益状況は前年同月を僅かに上回ったが、売上高・景況

感は大きく下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲35ポイント（前年同月比 25ポイント↓）

収益状況 ▲40ポイント（前年同月比 15ポイント↓）

景況感 ▲55ポイント（前年同月比 35ポイント↓）となった。

すべてのD.I値が前年同月を大きく下回った。骨材・石工品等製造業では、「繁忙期であるにもかかわらず工事量が少なく、延期となる工事現場も多く、製品需要が減少し売上げは▲10%となった」や、電気機械器具製造業では、半導体関連の受注量は昨年の2月頃からほぼゼロの状態が続き、「医療機器関係の受注量も低調に推移しており回復の見込みはなく、リピート品やロット数の多い部品の注文もほぼ無い」と、仕事量の確保に目処が立たない事業者の声が多く聞かれた。

また、「製品の販売価格を5%ほど値上げしたが、地金の高騰によって収益状況が安定しない（貴金属・宝石製品製造業）」を例に、価格転嫁に苦慮する事業者が多く、収益状況は▲15ポイントとなり、製造業全体で先行きに対する不安感が強まっている。（景況感▲35ポイント）

一方非製造業では…

売上高 ▲7ポイント（前年同月比 17ポイント↓）

収益状況 ±0ポイント（前年同月比 13ポイント↑）

景況感 ▲13ポイント（前年同月比 6ポイント↓）となり、

ジュエリー卸売業では、「海外向けの販売では、コロナによる影響で最も売上げが低かった令和2年と比較すると900%となり、国内需要も回復傾向である」とされ、価格転嫁も徐々に進んでいることから、先行きの見通しも明るい。一方で、水産物卸売業では、円安の影響による輸入食材の価格上昇によって収益状況が悪化しており、鉄骨・鉄筋工事業では、多くのメーカーが4月からの鋼材価格の値上げを表明している中で、「燃料油激変緩和対策事補助金の打ち切りなどによって、収益状況は悪化する一方である」など、収益状況は+13ポイントとなったが、業種によって偏り・隔りがあることが伺える。

また、中国の景気低迷による春節時期の観光客の減少や積雪によって、宿泊施設・飲食店の売上げが減少したことで、非製造業全体の売上高は▲17ポイントとなり、物価高・賃上げ・人材不足等の要因から景況感の見通しも良くない事業者が多かった。（景況感▲6ポイント）

多くの事業者が人材の確保・定着を課題としており、賃上げの必要性を感じているものの、「木材価格の低下と住宅着工数の減少、物価高騰による消費活動の低迷などが重なり、売上げが減少（木材・木製品製造業）」や、「小売店同士での価格競争が激化しており、安定した収益の確保が困難である（ガソリンスタンド）」など、原資となる売上げの確保に苦慮している。

また、「業界全体で後継者の不在や経営者・職人の高齢化が深刻な課題であり、廃業する事業者が増加している（繊維業）」との報告もあり、個々の企業努力には限界がある中で、適正な取引価格の実現のための価格交渉や、後継者育成のための環境づくりなど、同じ課題を抱える者同士が連携し、対策を講じる必要がある。

中央会では、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化していますので、お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	宿泊施設やブライダル関係の注文が多く、前年同月と比べ売上げは126.6%となった。カテゴリー別では、原材料関連が133%、ギフト関連が108.8%、商品関連が158.3%であった。
食料品 (洋菓子製造業)	店舗拡大効果によって、前年同月と比べ売上げは110%となった。
食料品 (麺類製造)	例年、2月は観光客が少ないため売上げが伸びない。外国人観光客に山梨の名物である「ほうとう」をもっと食べてもらえるようにアピールしたい。
繊維・同製品 (織物)	繊維産業全体で原糸の調達に困難な状況が続いている。円安の影響によって輸入材料の価格が上昇しているが、製品価格に十分に転嫁できておらず収益状況が悪化している。今後は、業界全体で適正な取引価格の実現のために価格交渉を行う必要性を感じている。
繊維・同製品 (織物)	繊維業界全体で後継者の不在や経営者・職人の高齢化が深刻な課題であり、廃業する事業者も増加している。個社の企業努力には限界があるため、後継者育成のための環境づくりなど、各業種が連携して対策を講じる必要があり、行政や支援機関のサポートも必要である。
木材・木製品製造	木材価格の低下と住宅着工数の減少、物価高騰による消費活動の低迷などが重なったことで、前年同月と比べ売上げは▲32%となった。先行きの見通しも悪い。
家具製造	前年同月と比べ売上げは▲10%、収益状況は▲50%となった。戸建て住宅（持ち家）が減少しているため、非住宅の物件に力を入れる必要性を感じている。
窯業・土石 (砂利)	繁忙期であるにもかかわらず工事量が少なく、延期となる工事現場も多かったため、骨材需要が伸び悩み前年同月と比べ売上は▲10%となった。
窯業・土石 (山碎石)	前年同月と比べ売上げは▲27%、収益状況は▲30%となった。電力や諸資材の価格や運搬費、人件費の上昇分を十分に転嫁できておらず、今後、販売価格の値上げに向けて交渉を行う予定である。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲5%となった。半導体関連の受注量の低迷が続いており、原材料価格の高騰もあり、収益の確保が困難な状況が続いている。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲15%となった。業種によっては仕事量が徐々に回復しているが、価格転嫁が進まず収益の確保が困難な状況が続いている。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲10%となった。在庫調整が思うように進んでおらず、先行きは不透明である。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月に比べて売上げは5%増加、収益状況は8%好転した。人手不足と賃上げへの対応に苦慮しており、先行きに不安を感じている。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上げ▲10%、収益状況▲15%となった。半導体関連の受注量は昨年の2月頃からはほぼゼロの状態が続き、医療機器関係の受注量も低調に推移しており回復の見込みはない。リピート品やロット数の多い部品の注文もほぼ無く、先行きは暗い。
宝飾 (貴金属)	製品の販売価格を5%ほど値上げしたが、地金の高騰によって収益状況が安定せず、先行きは不透明である。

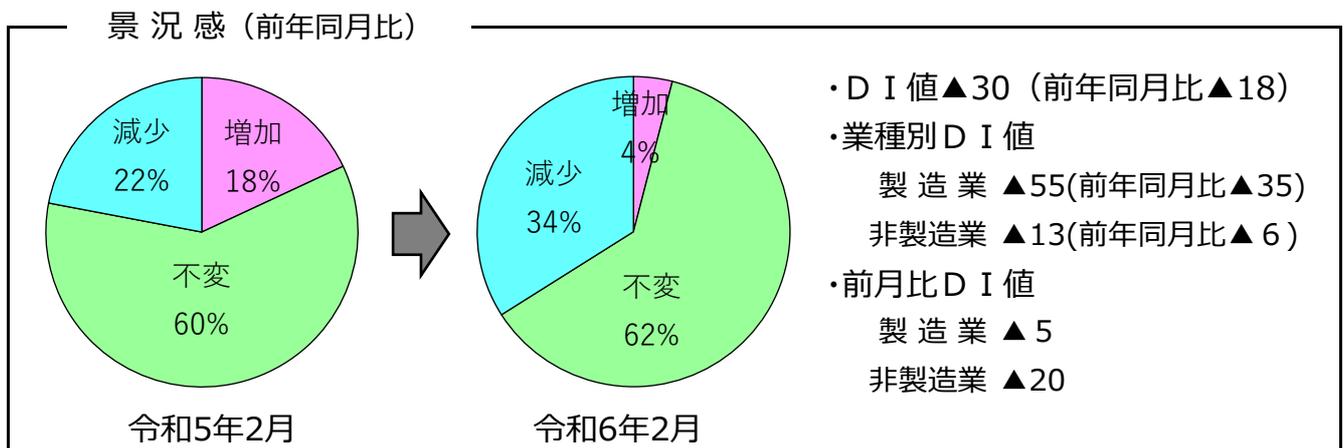
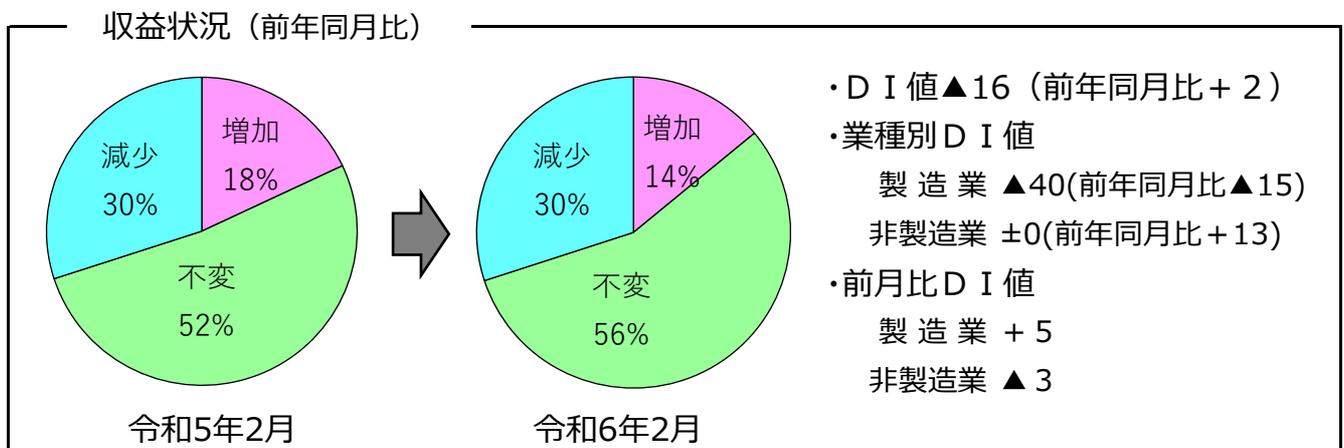
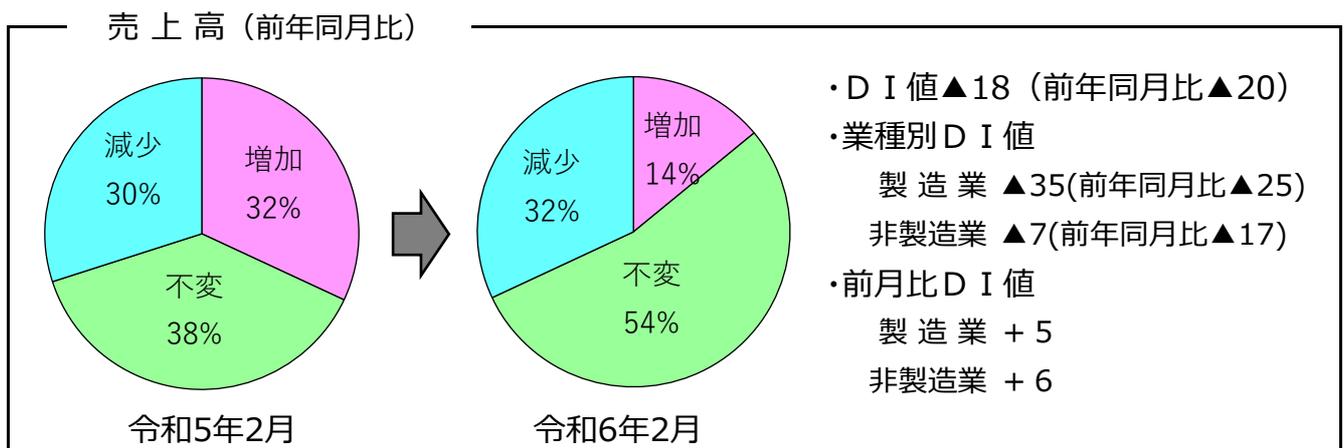
● 非製造業

卸売 (水産物)	前年同月と比べ売上げは10%増加したが、円安の影響による輸入食材の価格上昇によって収益状況が悪化しているため、先行きの景況感も良くない。
卸売 (ジュエリー)	前年同月と比べて売上げは132%となり、コロナによる影響で最も売上げが低かった令和2年度と比較すると200%となった。海外向けの販売では、前年同月比200%、令和2年と比較すると900%となった。 収益状況は前年同月と比べて▲3%となったが、価格転嫁が徐々に進んでおり、国内需要も回復傾向であることから、今年度の先行きは明るい。
小売 (青果)	野菜の出荷量の減少とハウス用燃料の価格上昇によって、前年同月と比べ売上げ・収益状況ともに▲5%となった。3月は花見等のイベントが増えるため、野菜の需要増加に期待している。
小売 (ガソリン)	小売店同士での価格競争が激化しており、安定した収益の確保に苦慮している。組合員は人材定着のために賃上げに取り組む必要性を感じているが、中小・零細の事業者が多く、対応に苦慮している。
商店街	組合が管理する駐車場の売上げは増加しているが、コロナ禍以前の状況には及ばない。 外国人観光客や宿泊施設の利用者の増加によって、大月駅前近隣の店舗は客足が増加しているが、国道20号沿いの店舗は厳しい状況が続いている。
宿泊業	全国旅行支援があった前年同月とは単純に比較することはできないが、観光客の減少によって客室の稼働状況が悪い。イベントの開催が増える3月以降の人流の増加に期待している。
宿泊業	中国の景気低迷の影響によって、春節期間の中国人観光客が減少した。
産業廃棄物処理	人手不足と機械設備の修繕費の増加が課題である。
一般廃棄物処理	今年度の取引価格の値上げ交渉が大詰めを迎えており、その結果次第で今後の従業員の賃金に大きな影響を及ぼすことになる。
警備業	警備員の高齢化や体調不良者の増加によって受注量を抑制していることに加えて、降雪などの天候不順によって中止や延期となる工事現場が増加したため、前年同月と比べ売上げは▲6%となった。 警備員の労務単価は上昇しているものの、土木軽作業員等と比較すると、依然として賃金格差は大きい。組合員は人材確保のために賃上げに力を入れているが、応募者は極めて少ない。若年層の人材確保のためには労務環境の改善が必要である。
建設業 (総合)	2月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は32.9%、請負金額は5.7%増加した。2月末累計の件数は4%増加、請負金額は4.6%増加した。
建設業 (鉄構)	多くのメーカーが4月からの鋼材価格の値上げを表明している中で、燃料油激変緩和対策事補助金の打ち切りなどによって、収益状況は悪化する一方である。
設備工事 (管設備)	前年同月と比べ売上げは▲9%となったが、収益状況は25%好転した。工事量・工事高は増加傾向にあるため、資材価格や人件費等の高騰分の転嫁が進めば、先行きも明るくなる。

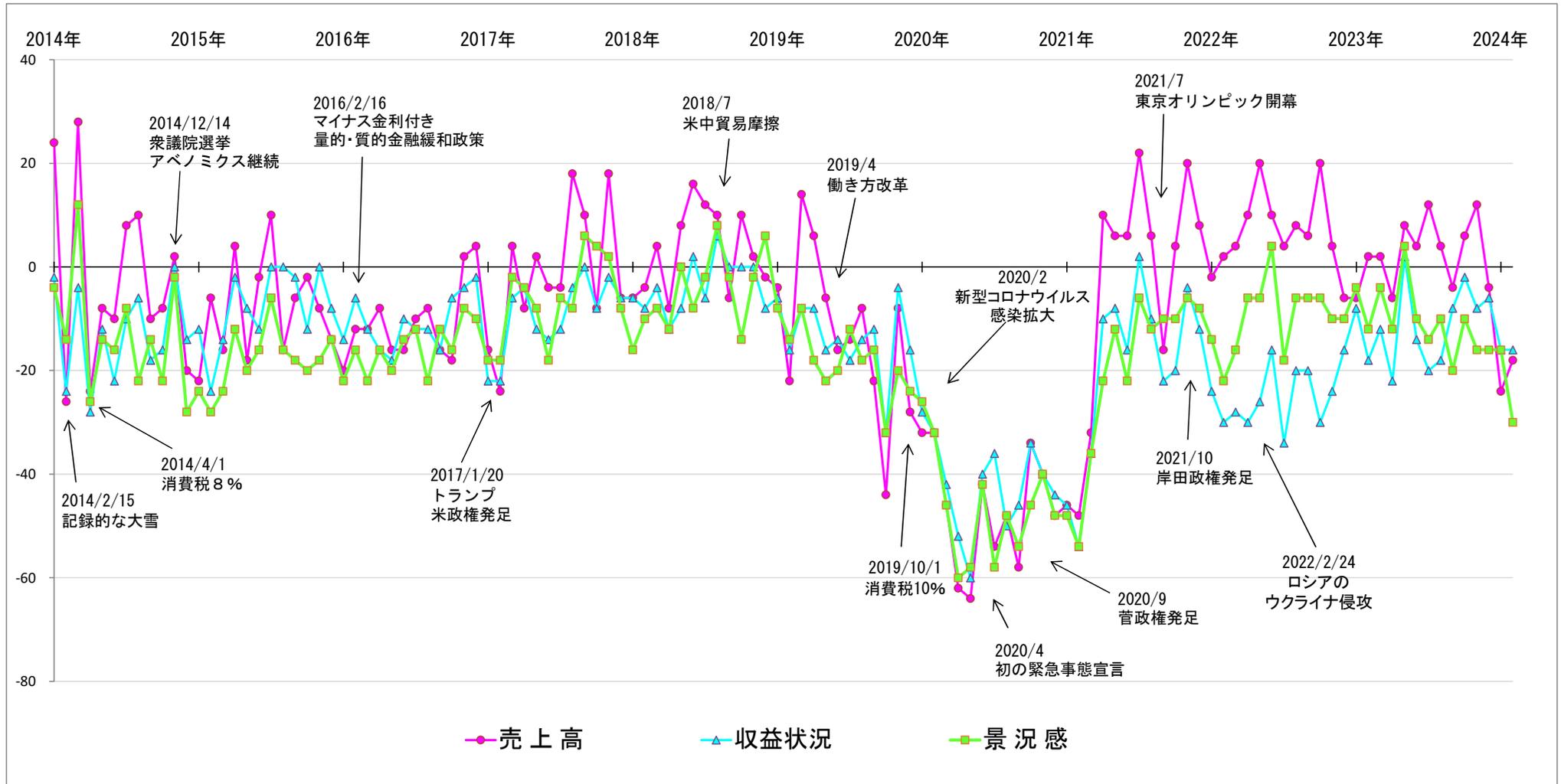
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2023年2月	2024年1月	2024年2月	2023年2月	2024年1月	2024年2月	2023年2月	2024年1月	2024年2月
売上高	▲ 10	▲ 40	▲ 35	10	▲ 13	▲ 7	2	▲ 24	▲ 18
収益状況	▲ 25	▲ 45	▲ 40	▲ 13	3	0	▲ 18	▲ 16	▲ 16
景況感	▲ 20	▲ 50	▲ 55	▲ 7	7	▲ 13	▲ 12	▲ 16	▲ 30

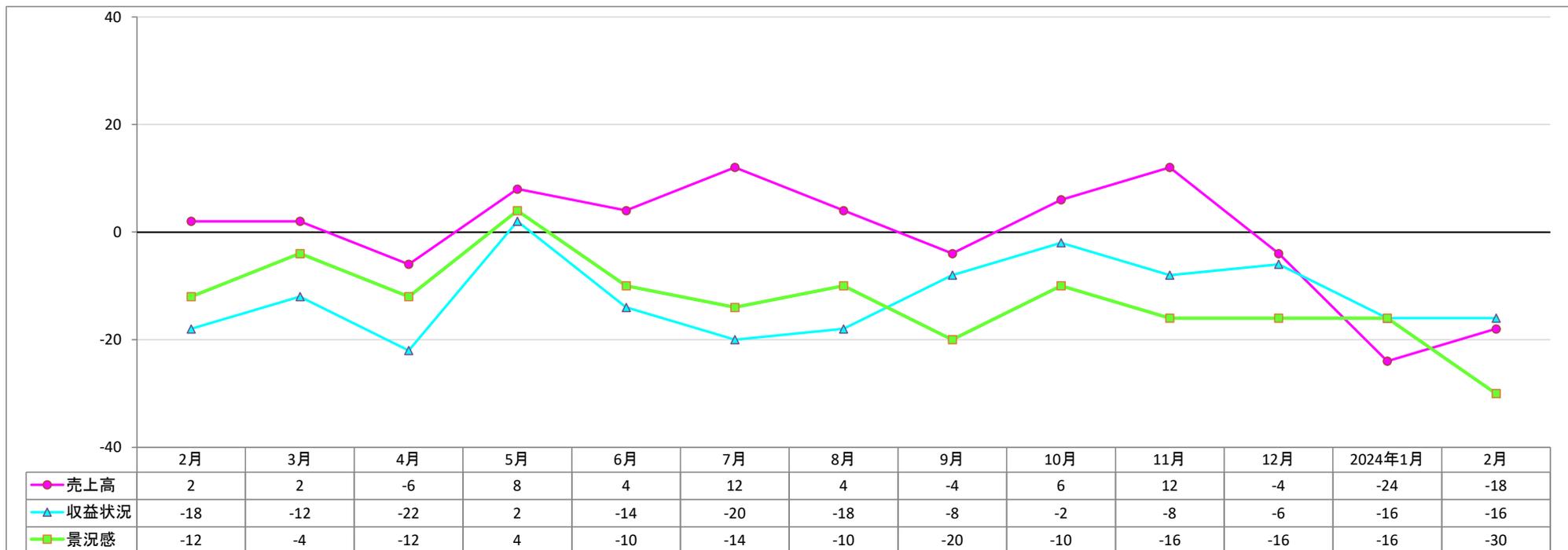
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



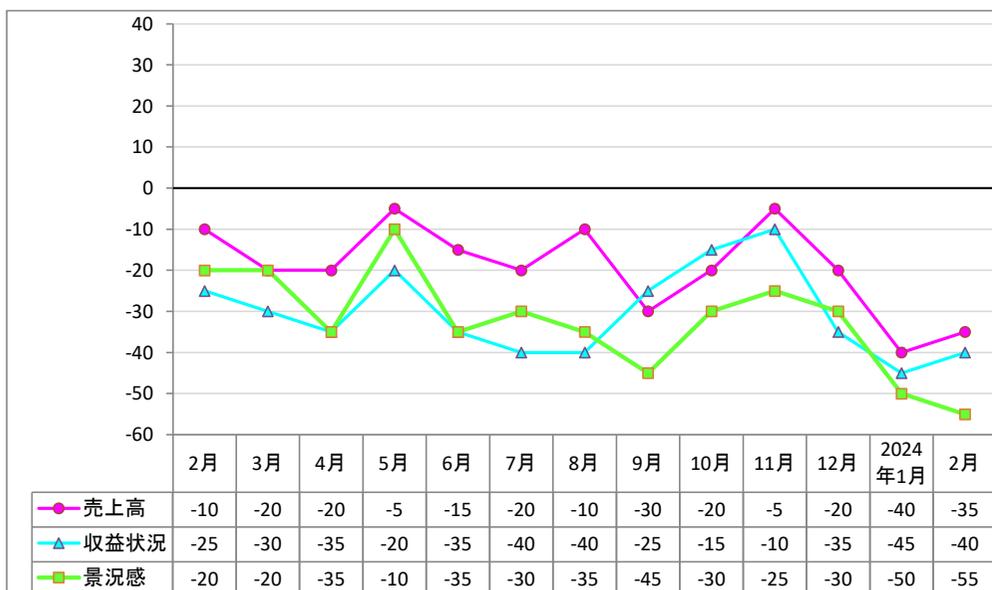
D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月~2024年2月



D.I値の推移②(過去1年間) 2023年2月~2024年2月



【製造業】



【非製造業】

